

2013年1月22日

岡山県知事 伊原木隆太 様
岡山県教育長 竹井千庫 様

日本共産党岡山県議会議員団
団長 森脇 久紀

「文化財防火デー」を前に、防火・防犯対策の強化を求める申し入れ

去る12月24日、岡山市北区の金山寺で火災があり、国指定重要文化財の本堂、県指定重要文化財の木造阿弥陀如来坐像等が焼失しました。金山寺は岡山県を代表する天台宗の古刹であり、本堂は岡山城主宇喜多直家によって16世紀後半に再建されたとされ、400年を超すだけでなく、桃山時代初期の建築様式を伝える貴重な建築物であり、地域のシンボルでもあっただけに、残念でなりません。

文化財は、「国民全体の財産」です。火災等により滅失すれば再び回復することが不可能であり、文化財は、まさに「かけがえのないもの」です。そのため、県にも市町村にも、所有者にも、その保存のための適切な管理への努力が格段に求められています。

報道によりますと、1955年以降、重要文化財の建造物が全焼した火災は86年の「前原家住宅」(旧・備中町)のみで、今回2件目とのことですが、国または県指定重要文化財の一部を焼く火災は何度か起きているとのこと。行政と連携した文化財保護のあり方が問われていると思います。今回の金山寺火災を教訓に、特に防災・防犯対策のあり方を、設備の整備、日常の保守・点検、訓練、事が起こった際の初期対応、被害軽減策など、総点検し、抜本的な改善・強化がはかれるよう、強く申し入れるものです。

記

- 1、市町村や指定文化財所有者(管理者)との連携を密にすること。
- 2、文化財保護、防火・防犯対策等について、県としても、防災・防犯対策として所有者がおこなう防災・防犯設備の整備、日常の保守・点検、訓練、初期対応等の個別具体の対策を提案し、市町村または所有者(管理者)との協議をリードすること。
- 3、上記のためにも、文化財の管理に携わる専門知識を有した職員を養成すること。
- 4、重要性や所有者の実情(宗教上の必要、立地の条件、財政状況等)に応じ、防災・防犯対策の整備に係る補助率を引き上げること。
- 5、市町村消防が日頃から文化財の存在と保護の必要性を認識することができるよう、連携を密にすること。

以上